

# 中山間農業・農村の活性化（その課題と方法）

—— 技術開発を中心にして ——

中国農業試験場

小泉浩郎

## 1. 中山間地域とは何か

1) 最初の文献として；香川俊一「四国の農業」農林省中国四国農業試験場

『中国四国の農業』1951.

2) 政策用語として；「農業白書89年度版」（平野の周辺部から山間地に至る

まとまった平坦な耕地が少ない地域，いわゆる中山間地・

……）1990.

3) 公式用語として；「新しい食料，農業・農村政策の方向」（農政審議会）

—— 今後の中山間地域対策の方向 —— 1992

4) 農林水産省組織として；「中山間地域活性化推進室」構造改善局，1994

以上が過去の用例であるが，政策上は次の二つの使われ方が一般的となっていると考えられるが，文脈によっても少し広い使い方もある（農及園70-1，笹谷）

①条件不利地域を対象とする関係5法（山振法，過疎法，半島法，離島法，特定農産村法）の指定地域をおおむね包括する概念。またはこれらのうち，中間地域と山村地域をぬきだした概念。

②農村統計上の定義，分類のうち中間農業地域と山間農業地域を合わせたもの。

参考) EC1975指令，条件不利地域農業政策

政策目的を「所得の増進」「自然空間の保全」「農村社会の維持」の3点におき「条件不利地域において農業の存続を確保し，それによって最低限の人口水準の維持と自然空間の保持を図る目的で，……これらの地域の農業の奨励

と農業所得の増大のための特別援助を導入する」とし「山岳地域（自然空間とジャーニーズ）」、「その他条件不利地域（土地条件の劣悪，全国平均以下の経営成果，顕著な過疎化等）」「特別ハンデキャップ地域（国土面積の4%の範囲内で自然空間，観光資源，水辺の保護のための農業存続不可欠地域）」の地域指定する。

## 2. 中山間地域の「地域」について

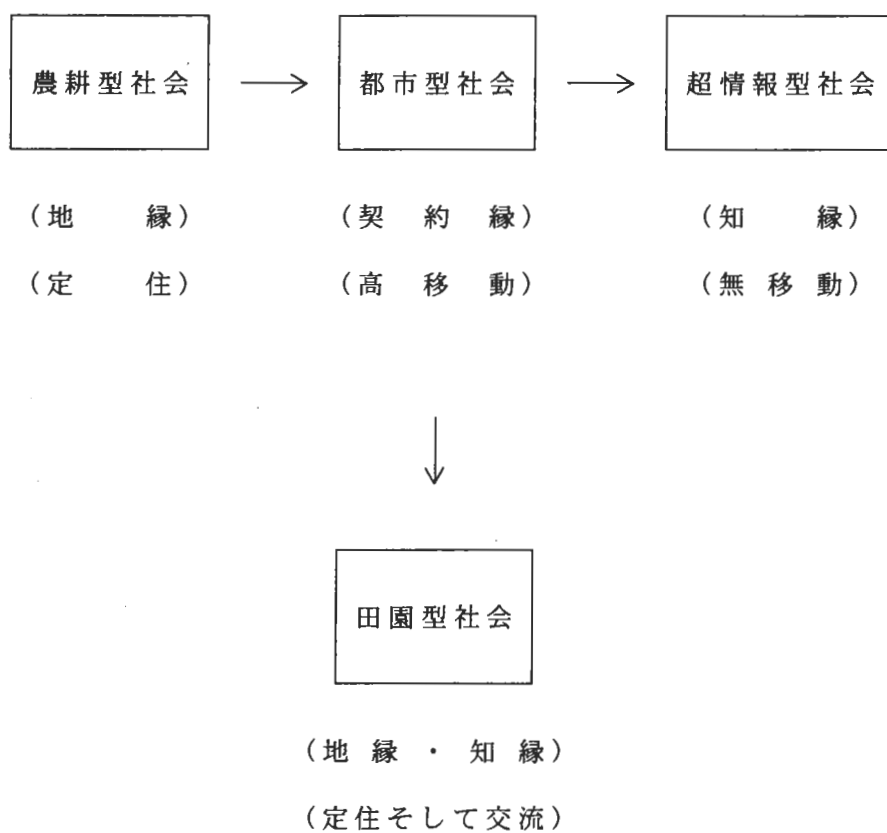
中山間の地域指定は，関係5法とも市町村と単位としている。農林統計の用いる農業地域類型も市町村単位である。しかし，中山間農業・農村問題は，行政単位である市町村という平均化されたところに生じているわけではない。広域合併された大都市の背後部は，問題を抱えた中山間農業地域がある。旧町村，さらに集落に視点をおく問題の把握と対策が要求されている。

ガット・ウルグアイランド合意後の「経営感覚にすぐれた強い農業経営の育成」への期待から，近年，地域農業再編における「集落」の評価は後方に押しやられたようである。その代表が農政審議会報告「新たな国際環境に対応した農政の展開方向（1994.8）」である。活力に満ちた農業構造・農業経営の実現には「市場原理の一層の活用」と「自由な経営の展開」を基本に「地域の合意に基づき，…地域全体としての農業生産力」を維持・強化することの重要性を提起している。12年前，同審議会が「80年代の農政の基本方向の推進について（1982.8）」で主張した「農業集落が保持してきたコミュニティ機能－地域資源の利用調整，共同管理等の優れた機能…」の継承発展の路線に，地域農業の再編・組織化を位置づけた事とは大きな変化である。

中山間農業・農村問題は，その限界最先端の1つ1つの集落の後退が問題である。「地域レベルでの話し合いと合意形成」が必要だと同報告書は何度も繰り返しているが「実態」のある地域は，集落である。集落の果してきた機能に再び着目する必要がある。それは，ある政策推進のための手段としての集落ではなく時代を越えて果たしている役割の再評価である。

### 3. 中山間農業・農村の現状（スライド）

### 4. 時代を読む



### 5. 活性化の目的

人々が定住し暮らしを立てる（住民参加，生活中心，風土合理）

## 6. 活性化とむら（集落）の役割

①「集落」は自治と共生を結衆の契機とする非営利集団である，②自治は「利害調整機能」と合意形成機能を，共生は「資源管理機能」と「生活保全機能」を有する，③地域農業は，三つの軸（生活軸，資源軸，生産軸）にそれぞれの目的によりルースな関係にある。④組織目的の異なる間の合意形成は，我執を越えた社会的決定をいう全員一致方式を基本とする，⑤十分な話し合いと社会的合意の中で，意欲ある経営体が認知されその活動が保障される。⑥地域農業の再編と安定性は組織論的からは基礎集団（属地的）と機能集団（属人的），機能論的には生産の論理（生産軸）と集落の論理（生産軸と資源軸）の相互補完的な発展である。

地域農業・農村の再編にとって「集落」は，古い，小さい，弱いという風潮がある。地域農業・農村再編に果たす新しい「集落」は，「古い」という評価には，社会における「受け身」の組織としてではなく，その本来の機能である地域自治への自覚が必要であり，「小さい」という評価には，基礎集団としての内実を固めながら，必要により外に開かれた連携・協力を積極的に進めるべきであり，そして「弱い」という評価には，非営利集団としての「集落」運営と新しい人材の登用が課題である。また，そのことにより意欲的な個別経営・組織経営体の向上・発展を支援する方法・手順が用意されることになる。

## 7. 活性化の課題 — 「もの」作りから「ちえ・わざ」創りへ —

### 1) 農業関係試験研究の再編

#### ①科学技術基本計画（1996. 6閣議決定）

Ⅶ. 地域における科学技術の振興（人と自然が共存し，安心して暮せる豊かな地域社会の実現のため，地域ニーズ，特性，自然条件等に立脚して基礎的・先導的研究開発）

#### ②農林水産研究基本目標（1996. 7農林水産技術会議決定）

Ⅱ. 農林水産研究の重点化方向（ウルグアイ・ランド農業合意等による国際化の進展，中山間地域を中心とした農山漁村の過疎化の進展等，我が国農

林産業及び関連産業並びに農山漁村が抱える困難な状況を早急に打開することを最重要課題とし、

①生産現場に直結する新技術の開発

②革新的技術の開発に資する、ライフサイエンス、エコサイエンス等の基礎的、先導的研究)

③中国農業試験場の研究基本計画（1996. 10）

1. 都市近接性及び地域資源を活用した中山間地域営農システムの確立
2. 高付加価値化や軽労化等に対応した作物の開発及び高品質・安定生産
3. 気象・土壌等の地域特性を生かした野菜の高品質周年安定生産
4. 遺伝資源や草地等の地域資源活用による肉用牛の持続的高生産
5. 都市近接性等の立地条件に調和した中山間地域生産環境管理

④四国農業試験場の研究基本計画（1996. 10）

1. 果樹、野菜、花き等の快適化技術の開発による傾斜地域振興営農システムの確立
2. 健康機能性向上を目指した果樹、野菜、花き等の安定生産
3. 傾斜地における小規模基盤整備等による農業環境整備

## 8. 研究開発の新しい視角

### 1) 新しい出発

ガット合意等新たな情勢の変化を踏まえ、国の機関として果たすべき役割について、技会の検討と連動させながら議論を重ねてきた。その結果が、10月1日から中国農業試験場は、新しい体制で研究推進することになった。その重要なキーワードは、「中山間農業・農村問題」、「現地直結型技術開発」である。

「中山間農業・農村問題」は、規模やコスト、新規学卒就農者を数える枠組みでは解決できない。人々が定住し暮らしをたて、その結果、水や緑が守られる。そのことを評価し、そのための問題設定と課題解決という新しい視角が重要である。

また、「現地直結型技術開発」は、現場にすぐ役立つ実用普及技術の開発という

意味ではない。国がやるこの研究は、中山間農業・農村の多面的な役割の評価を踏まえ、先見性：動向分析とあるべき方向に基づく規範的研究，先導性：中長期的視点に立った戦略的研究，革新性：科学的視点に基づく先端的研究が要件である。

農業生産は、移動できない固有の地域資源の循環利用と生命系の再生産を基本としている。その限りでは、地域資源（生産現場）と乖離した農業技術は存在しない。地域資源に根ざし、農業・農村そして消費者が直接のユーザーとなる技術開発が課題である。

「貿易と環境」，「農業と環境」を巡る食料輸出国側の基本論理は，「貿易の自由化，農業保護の削減は，環境にプラスであり食料の公平な分配になる」と主張，地域規模での産地間競争を一層促進しようとしている。市場原理に基づくコスト競争を唯一とする価値観では，中山間農業・農村はもとより，日本農業も，そう遠くない将来，その存在基盤を失うことは明らかである。世界の農業・農村の大部分も，限界地に近い厳しい農業立地のなかで，農耕を営み，固有の文化を育んでいる。中国農業試験場のこの新しい出発は，市場原理だけでない，宇宙船地球号のもう一つの重要な農業・農村のあり方と研究開発の方向を求める船出でもある。（場ニュースNo.15）

## 2) 世界に貢献

平成6年8月，農政審議会は，わが国農業・農村は，構造的変革の局面にあるとし，一層の市場原理の導入を基調とする農政の展開方向を発表した。その中で，「国土資源に制約のあるわが国は，食料の安定供給のため国内生産と輸入及び備蓄の適切な組み合わせが不可欠」としている。

すでに食料自給率はカロリーベースで50%を割り，国民の豊かな食生活は，海外の農地と農産物にその大半を依存している。その見方からすれば，限られた国土資源という表現は正しい。しかし，アジアモンスーン地帯，複雑な地形と変化に富む気候が織りなす日本列島は，むしろ世界に類を見ない豊かな農業資源大国でもある。

近畿中国四国はわが国農業・農村の縮図と呼ばれ，その厳しさは1歩先を歩んで

いる。その限りでは条件不利というイメージが先行しがちであるが、重要なことはそれをマイナスと見るのではなく、その賦存する資源の潜在的な働きに注目することであろう。

農業審議会は、さらにその報告の中で「活力に満ちた農業構造・農業経営の実現には現場に直結した技術開発」の必要性を提起している。農業生産は、分割し移転できない地域資源の持続的利用と管理のもとで営まれている。したがって農業技術は地域資源と一体であり、必然的に現場直結である。資源を移動しコストの安い方法と場所を選べる工業生産とは基本的に異なる。

地域の立地的特徴を踏まえ、賦存する豊かな資源の分析評価に基づく先導的現場技術の開発、そのために必要な基礎的研究の深化、また、専門場所への期待すべき基礎研究の発信、そして研究成果の地球規模での貢献、これこそ地域農業試験場の担うべき研究の1つのあり方として期待されているように思う。

鳥取大学を中心としたローカルな山陰砂丘研究が不毛の地を沃土と化し、その成果は作物と水との生理生態的基礎研究の一層の深化を促し、そして、その開発技術は地球緑化の最先端技術として世界に貢献している。

Act Local Think Global という言葉があるが、農業技術研究は、Think Local（研究対象は農業生産の現場）、Act Global（その成果は、国内はもとより地球規模で貢献）が重要であるように思う。（場ニュースNo.108）

## 9. 現場に直結した技術開発 — 主な研究テーマと成果 —

- ①芝型草地と肉用牛（島根：山瓶山麓）
- ②地域資源をいかしたハウレンソウ栽培（京都：夜久野町）
- ③環境保全型再生紙マルチ直播（岡山：加茂川町）
- ④園地整備とミカンの軽労化（愛媛：吉田町）
- ⑤傾斜を活用した園芸施設（高知：土佐町）

## 10. むすび

昭和のはじめ、農産村は不況のどん底であった。農家の主要な現金収入源であった米やまゆの相場が暴落し、特に昭和6年の大凶作と重なった東北、北海道の惨状は言語に絶するものであった。その窮状を救うべく発足したのが農山漁村経済更生運動であった。「むら」を基盤に隣保共助による自立更生を柱として国を挙げての運動を展開した。

しかし、そもそも、この運動は、自立更生運動として兵庫県農会を中心に展開された土着な地方の運動であった。昭和7年、農山村の不況が最悪に達した時期、この運動の一層の拡大を図るため農村指導者を集め県下10ヶ所で農人自力更生祭を挙行了。その時、むらづくりのシンボルとして、木彫農人像が参加者全員に配布された。岐阜の彫刻家に依頼、その数は、数千体といわれている。

したがって、このような地方の運動を国の政策とすることに関して、自立更生運動は天下りは禁物、何よりも政府は、自立更生の名を借り、本来、「くに」がやるべき農村救済策を「むら」に転嫁することになるのではないかという反対も多かった。「くに」がなすべき事を他に転嫁することも「むら」がやるべき事を放てきすることも、どちらも誤りである。

「農人像」は、「むらづくり」「まちづくり」のシンボルである。



木彫自力更生農人像  
(実物大)



# 私の提言 私の発言

瀬戸内海に浮かぶ小さな島に十  
九戸のミカン専業農家がある。商  
店も病院もない。学校は小学校分  
校だけ。親元を離れ町に下宿した  
子供たちは島に戻り後継者とな  
る。そして二十五歳ごろには島の  
外から配偶者を迎える。

町から屈折する坂道を二十も  
登ったところに、十六戸の農家が  
ダイコンとホウレン草を作ってい  
る。学校も商店もない。冬は雪下  
二〇度、農作物は夏一作だけであ  
る。ここでも後継者不足、嫁不足  
の話を聞かない。

ろだが、中国、四国筋の中山間地  
はこのような事例をいくつも耳に  
する。中山間農業・農村の厳しい  
条件を数え上げ、その解決の方途  
を見失う前に、この活力ある「む

ら」づくりに学ぶ必要がある。中  
国、四国筋の中山間地は、ついでに  
日本人の大半は、つい最近まで  
農村で生まれ、その田園的風土を  
原体験として育った。それが極め  
て短い間に、都市で生まれ都市で  
育った世代が国民の多数を占める  
ようになった。農村の人々も都市  
に通勤・通学し、生活時間の大部  
分を都市での生活に費やしてい

る。わが国は、いまや総都市型社  
会である。この急激な、そして広  
範的な都市化現象は何をもたらし  
たか。V・Pカードが「見知ら  
ぬ人々の国」で警告したように、  
家庭とコミュニティを壊し、  
都市文明の病理現象として大き  
な社会問題をもたらしている。多  
分、いじめ問題もその枠の外でな  
る。わが国は、いまや総都市型社  
会である。この急激な、そして広  
範的な都市化現象は何をもたらし  
たか。V・Pカードが「見知ら  
ぬ人々の国」で警告したように、  
家庭とコミュニティを壊し、  
都市文明の病理現象として大き  
な社会問題をもたらしている。多  
分、いじめ問題もその枠の外でな  
る。

## 中山間農業・農村の活性化

ら「づくりに学ぶ必要がある。中  
国、四国筋の中山間地は、ついでに  
日本人の大半は、つい最近まで  
農村で生まれ、その田園的風土を  
原体験として育った。それが極め  
て短い間に、都市で生まれ都市で  
育った世代が国民の多数を占める  
ようになった。農村の人々も都市  
に通勤・通学し、生活時間の大部  
分を都市での生活に費やしてい

る。わが国は、いまや総都市型社  
会である。この急激な、そして広  
範的な都市化現象は何をもたらし  
たか。V・Pカードが「見知ら  
ぬ人々の国」で警告したように、  
家庭とコミュニティを壊し、  
都市文明の病理現象として大き  
な社会問題をもたらしている。多  
分、いじめ問題もその枠の外でな  
る。

る。わが国は、いまや総都市型社  
会である。この急激な、そして広  
範的な都市化現象は何をもたらし  
たか。V・Pカードが「見知ら  
ぬ人々の国」で警告したように、  
家庭とコミュニティを壊し、  
都市文明の病理現象として大き  
な社会問題をもたらしている。多  
分、いじめ問題もその枠の外でな  
る。

る。わが国は、いまや総都市型社  
会である。この急激な、そして広  
範的な都市化現象は何をもたらし  
たか。V・Pカードが「見知ら  
ぬ人々の国」で警告したように、  
家庭とコミュニティを壊し、  
都市文明の病理現象として大き  
な社会問題をもたらしている。多  
分、いじめ問題もその枠の外でな  
る。

る。わが国は、いまや総都市型社  
会である。この急激な、そして広  
範的な都市化現象は何をもたらし  
たか。V・Pカードが「見知ら  
ぬ人々の国」で警告したように、  
家庭とコミュニティを壊し、  
都市文明の病理現象として大き  
な社会問題をもたらしている。多  
分、いじめ問題もその枠の外でな  
る。



中国農業試験場長  
小泉 浩郎

る。わが国は、いまや総都市型社  
会である。この急激な、そして広  
範的な都市化現象は何をもたらし  
たか。V・Pカードが「見知ら  
ぬ人々の国」で警告したように、  
家庭とコミュニティを壊し、  
都市文明の病理現象として大き  
な社会問題をもたらしている。多  
分、いじめ問題もその枠の外でな  
る。

る。わが国は、いまや総都市型社  
会である。この急激な、そして広  
範的な都市化現象は何をもたらし  
たか。V・Pカードが「見知ら  
ぬ人々の国」で警告したように、  
家庭とコミュニティを壊し、  
都市文明の病理現象として大き  
な社会問題をもたらしている。多  
分、いじめ問題もその枠の外でな  
る。

る。わが国は、いまや総都市型社  
会である。この急激な、そして広  
範的な都市化現象は何をもたらし  
たか。V・Pカードが「見知ら  
ぬ人々の国」で警告したように、  
家庭とコミュニティを壊し、  
都市文明の病理現象として大き  
な社会問題をもたらしている。多  
分、いじめ問題もその枠の外でな  
る。

る。わが国は、いまや総都市型社  
会である。この急激な、そして広  
範的な都市化現象は何をもたらし  
たか。V・Pカードが「見知ら  
ぬ人々の国」で警告したように、  
家庭とコミュニティを壊し、  
都市文明の病理現象として大き  
な社会問題をもたらしている。多  
分、いじめ問題もその枠の外でな  
る。

る。わが国は、いまや総都市型社  
会である。この急激な、そして広  
範的な都市化現象は何をもたらし  
たか。V・Pカードが「見知ら  
ぬ人々の国」で警告したように、  
家庭とコミュニティを壊し、  
都市文明の病理現象として大き  
な社会問題をもたらしている。多  
分、いじめ問題もその枠の外でな  
る。

# 意見の